

令和6年度入学試験問題(前期)

小論文

(医学部保健学科)

(90分)

【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験中に落丁・乱丁や印刷の不鮮明な箇所などに気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせて下さい。
3. 解答用紙を別に配付しています。解答は、問題と同じ専攻、同じ番号の解答用紙に記入して下さい。指定の解答用紙以外に記入したものは無効です。
4. 監督者の指示に従って、解答用紙の指定された欄に受験番号を記入して下さい。
5. 解答用紙にアルファベット、算用数字を記入する場合には、1マスに2文字ずつ入れて下さい(ただし、字数が奇数の場合は、末尾の1文字は1マスに入れて下さい)。
6. 問題は、専攻によって異なります。
 - ① 看護学専攻
 - ② 理学療法学専攻
 - ③ 作業療法学専攻
7. 配付された問題冊子および下書き用紙は、試験終了後、持ち帰って下さい。

1 (医学部保健学科看護学専攻)

以下の(1)(2)について、合わせて800字以内で記述しなさい。

- (1) 図1～4は、「人生の最終段階における医療に関する意識調査 報告書」(厚生労働省)の中から、一般国民(回答者：973名)を対象とした調査結果を示したものである。これらの図から読み取れることを200字前後で論じなさい。
- (2) 図の後の文章を読み、(1)を踏まえて、「人生会議」についてあなたの考えを600字前後で論じなさい。

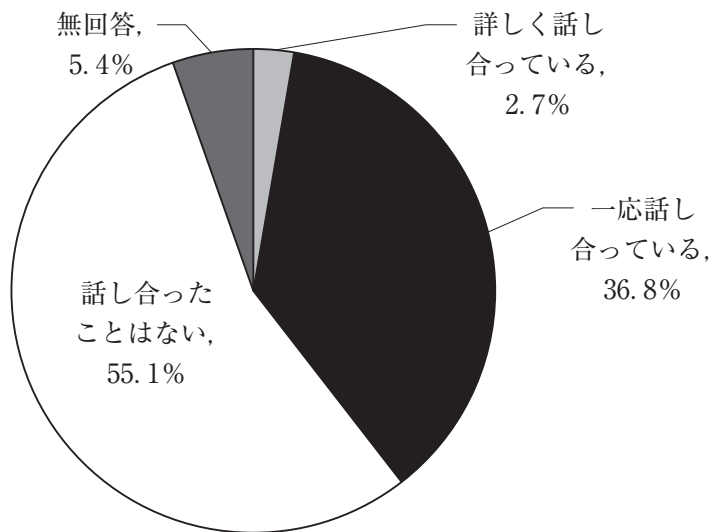


図1 人生の最終段階における医療についての家族等や医療介護関係者との話し合いについて

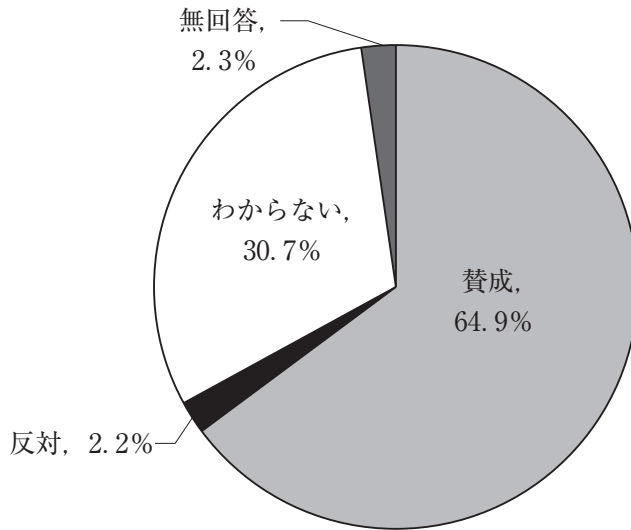


図2 アドバンス・ケア・プランニング*の賛否について

*アドバンス・ケア・プランニング：人生の最終段階の医療・療養について、患者本人の意思に沿った医療・療養を受けるために、家族等や医療介護関係者等とあらかじめ話し合い、また繰り返し話し合うこと

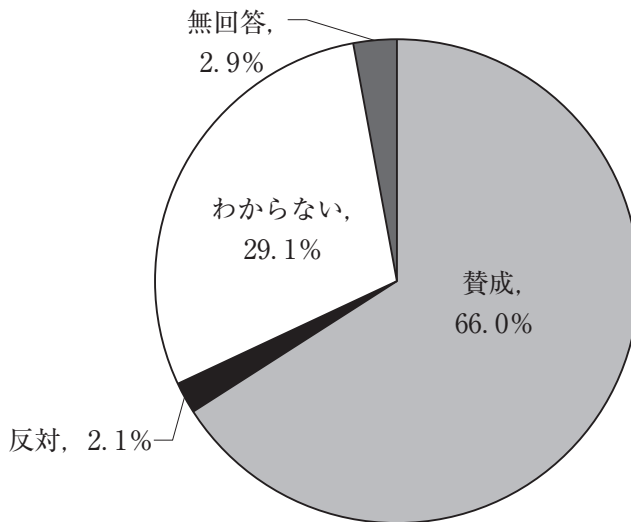


図3 意思表示の書面(どのような医療・療養を受けたいか等を記載した書面)をあらかじめ作成しておくことについて

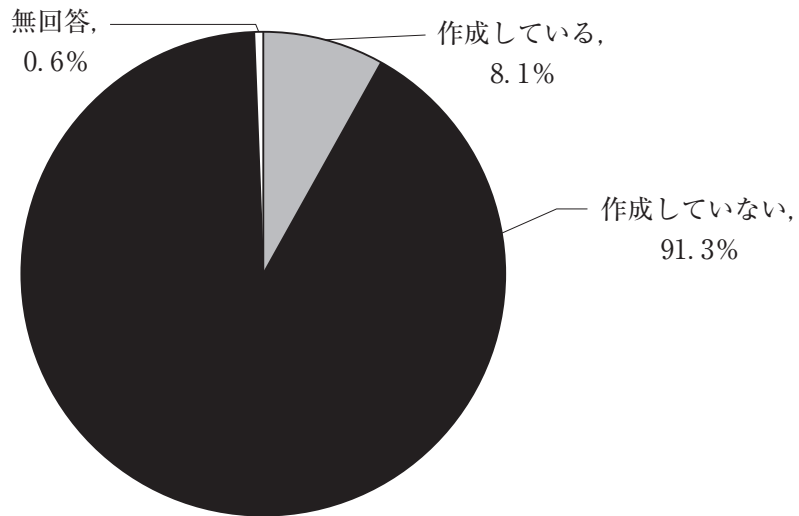


図4 意思表示の書面作成状況について(図3で賛成している642名が対象)

図1～4：出典：「人生の最終段階における医療に関する意識調査報告書(平成30年3月)」(厚生労働省)(https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/saisyuiryo_a_h29.pdf)よりデータを得て作成

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

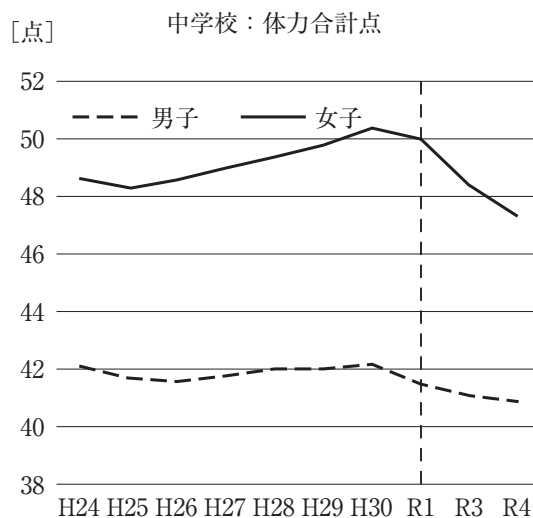
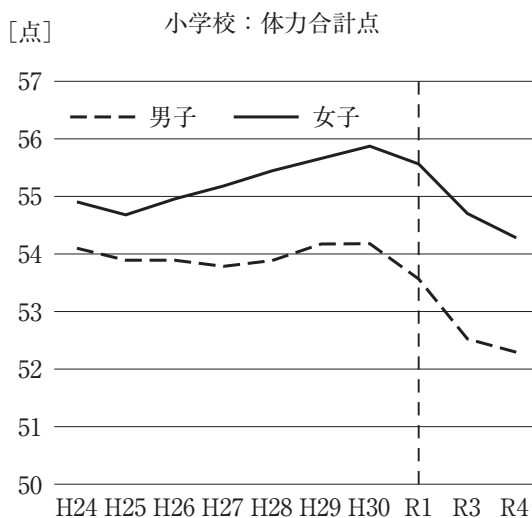
著作権の関係上、省略します。

出典：村上靖彦. 『ケアとは何か』 中央公論社. 2021. より抜粋, 一部改変

2 (医学部保健学科理学療法学専攻)

以下の図は、スポーツ庁が発表した「令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の中の、児童生徒の体力合計点の状況を表したものである。なお、左図の「小学校」は小学校5年生、右図の「中学校」は中学校2年生の結果であり、体力合計点が高いほど、体力が高いことを表す。

それぞれ令和元(R1)年度から連続して体力合計点は低下し、令和4(R4)年度の体力合計点が最も低くなっている。この理由についての社会情勢を踏まえた考察と今後の改善方法等についてあなたの意見を800字以内で述べなさい。



※男女の採点基準が異なるので、素点の男女比較はできない。

Hは平成、Rは令和の略。R2のデータは公表されていない。

出典：「令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の概要(令和4年12月)」(スポーツ庁)(https://www.mext.go.jp/sports/content/20221223-spt_sseisaku02-000026462_2.pdf)よりデータを得て作成

次の文章は、令和4年版高齢社会白書において、高齢化の現状と将来の推計について述べられたものです。この文章を読んで、これからのリハビリテーション医療において予想される問題点と解決策について、あなたの意見を800字以内で述べなさい。

(1) 高齢化率は28.9%

我が国の総人口は、令和3年10月1日現在、1億2,550万人となっている。65歳以上人口は、3,621万人となり、総人口に占める割合(高齢化率)も28.9%となった。65歳以上人口を男女別に見ると、男性は1,572万人、女性は2,049万人で、性比(女性人口100人に対する男性人口)は76.7であり、男性対女性の比は約3対4となっている。65歳以上人口のうち、「65～74歳人口」は1,754万人(男性839万人、女性915万人)で総人口に占める割合は14.0%となっている。また、「75歳以上人口」は1,867万人(男性733万人、女性1,134万人)で、総人口に占める割合は14.9%であり、65～74歳人口を上回っている。

我が国の65歳以上人口は、昭和25年には総人口の5%に満たなかったが、昭和45年に7%を超え、さらに、平成6年には14%を超えた。高齢化率はその後も上昇を続け、令和3年10月1日現在、28.9%に達している。また、15～64歳人口は、平成7年に8,716万人でピークを迎え、その後減少に転じ、令和3年には7,450万人と、総人口の59.4%となった。

(2) 将来推計人口で見る令和47(2065)年の日本

平成29年4月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の将来推計人口」における出生中位・死亡中位仮定による推計結果(以下本節においては全てこの仮定に基づく推計結果)を概観する。将来推計人口とは、全国の将来の出生、死亡及び国際人口移動について仮定を設け、これらに基づいて我が国の将来の人口規模並びに年齢構成等の人口構造の推移について推計したものである。

ア. 9,000万人を割り込む総人口

我が国の総人口は、長期の人口減少過程に入っており、令和 11 年に人口 1 億 2,000 万人を下回った後も減少を続け、令和 35 年には 1 億人を割って 9,924 万人となり、令和 47 年には 8,808 万人になると推計されている。

イ. 約 2.6 人に 1 人が 65 歳以上、約 3.9 人に 1 人が 75 歳以上

65 歳以上人口は、「団塊の世代」が 65 歳以上となった平成 27 年に 3,379 万人となり、「団塊の世代」が 75 歳以上となる令和 7 年には 3,677 万人に達すると見込まれている。その後も 65 歳以上人口は増加傾向が続き、令和 24 年に 3,935 万人でピークを迎え、その後は減少に転じると推計されている。総人口が減少する中で 65 歳以上の者が増加することにより高齢化率は上昇を続け、令和 18 年に 33.3% となり、国民の 3 人に 1 人が 65 歳以上の者となる。令和 24 年以降は 65 歳以上人口が減少に転じても高齢化率は上昇を続け、令和 47 年には 38.4% に達して、国民の約 2.6 人に 1 人が 65 歳以上の者となる社会が到来すると推計されている。総人口に占める 75 歳以上人口の割合は、令和 47 年には 25.5% となり、約 3.9 人に 1 人が 75 歳以上の者となると推計されている。

出典：「令和 4 年版高齢社会白書」(内閣府)(https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2022/zenbun/pdf/1s1s_01.pdf)より抜粋、一部改変